



STANDARD

WIDE

BAND RECEIVER

AX400

ワイドバンドレシーバー

取扱説明書

- お買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
- お使いになるまえに、この取扱説明書をよくお読みのうえ、この取扱説明書は大切に保管してください。
- 本機は、国内仕様です。国外では使用できません。

3ページより

はじめに

7ページより

使いかたの基本を知ろう

17ページより

もっと自由にあつかうために

21ページより

拡張モードを使うには

29ページより

メモリー機能を使うには

37ページより

すばやく受信するため

47ページより

ご参考に

日本マランツ株式会社

ご使用前に

安全上のご注意

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は、感電注意が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

警告

●単3のアルカリ電池・マンガン電池または当社のニッケド充電電池CNB401以外で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



●使用済みの電池は、火の中などに入れないでください。爆発して火災・やけどの原因となります。



●濡れた手で電池を取り付け・取り外ししないでください。感電の原因となります。



●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



●万一、この機器を落としたり、破損した場合は、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



●この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



⚠ 注意

●本機を受信機としての用途以外にはご使用にならないでください。



●本機をご使用にならないときは、乳幼児の手の届かないところで保管してください。



●旅行などで長時間、本機をご使用にならないときは、電池は本機から外してください。また外した電池は乳幼児の手の届かないところで保管してください。



●この機器が近くテレビ、電子機器、医療機器等に影響を与えるときは、ご使用にならないでください。



●本機のアンテナ部分が誤って、目にささらないようにしてください。



●お手入れの際は安全のため電源を切ってください。



●湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。特に車中には放置しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。



お知らせ

●本機は0.5MHzから1300MHzの間を受信することができますが、以下の周波数の範囲は入力できません。(周波数の範囲は以上～未満で表わしています。)

253 MHz ~ 256 MHz	262 MHz ~ 267 MHz	271 MHz ~ 276 MHz
380 MHz ~ 383 MHz	412 MHz ~ 416 MHz	531 MHz ~ 540 MHz
556 MHz ~ 572 MHz	624 MHz ~ 635 MHz	810 MHz ~ 835 MHz
860 MHz ~ 890 MHz	915 MHz ~ 961 MHz	995 MHz ~ 1016 MHz

●無線通信の内容を窃用したり、他人に漏らすことは、法律により禁止されています。

本書の読みかた

本書では、次の記号を使っています。



覚えていると便利なこと、またはアドバイスを示します。



参照するページを示します。



ファンクションキーを押しながらの操作を表わします。

以下の記号は、セットモード機能を表わします。この機能を使うと、本機をより使いやすい状態にセッティングできます。



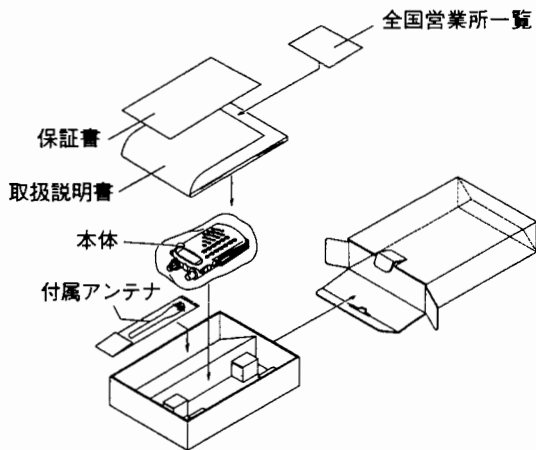
全てのモードの時に使えます。



拡張モードにしたときに使えます。

梱包品をご確認ください。

また、保証書にはお買い上げになった、販売店、日付が記入されていることをご確認ください。



もくじ

ご使用まえに	i
本書の読み方	iii
梱包品をご確認ください	iii
はじめに	3
正しくお使いいただくために	4
本機について	5
アンテナを取り付けるには	6
電池を入れるには	6
使いかたの基本を知ろう	7
電源を入れるには	8
プリセットモードについて	8
音量を調整するには	9
スケルチを調整するには	9
プリセットメモリーを呼び出すには	10
周波数を変更するには	10
電波の型式を選択するには	11
プリセットメモリーを変更するには	11
表示部のランプを点灯させるには	12
間違って操作するのを防ぐには(キーロック)	12
設定を最初の状態に戻すには(VFOリセット)	13
すべての状態を最初に戻すには(オールリセット)	13
各部の名称と動作	14

もっと自由にあつかうために	17
周波数ステップを変えるには(オートステップ)	18
周波数に合わせて電波型式を変更するには (オートモード)	18
照明の操作を切り替えるには	19
キー操作音を鳴らさないようにするには	19
電池を長くもたせるには(バッテリーセーブ)	20
自動的に電源を切るには(オートパワーオフ)	20
拡張モードを使うには	21
拡張モードにするには	22
VFO状態にするには	22
周波数を変更するには[2]	23
セットモードの機能を簡単に切り替えるには (マイキー)	24
キーロック中にセレクターをえるようにするには	24
入力信号の強さに応じてスケルチを開くには (RFスケルチ)	25
受信感度を低くするには(アッテネーター)	25
FM時のシグナルメーターの振れる割合を変えるには	26
MHz単位で周波数を変えるには (ファーストステップ)	26
周波数を100MHzステップで変更するには	27

メモリー機能を使うには	29
メモリー機能について	30
メモリーを呼び出すには[1]	31
メモリーを呼び出すには[2]	31
メモリーするには	32
メモリーを消すには	33
メモリーを変更できないようにするには (メモリープロテクト)	33
メモリーをブロックごとに消すには	34
メモリーの内容を交換するには(メモリースワップ)	34
メモリー周波数のままVFO状態に戻るには	35

すばやく受信するために	37
受信するための各機能について	38
オールサーチするには	39
ワンタッチサーチするには	39
サーチバンドメモリーを書き替えるには	40
サーチバンドメモリーを消すには	40
プログラムサーチするには	41
サーチ中に受信したくない周波数を飛ばすには[1] (サーチパスメモリー)	41
サーチ中に受信したくない周波数を飛ばすには[2] (サーチパスメモリー)	42
サーチパスメモリーを消すには	43

オールメモリースキャンするには	43
指定した周波数をスキャンするには (メモリースキャンメモリー)	44
メモリーをブロックごとにスキャンするには (ブロックメモリースキャン)	45
ポーズタイプの停止時間を変えるには	45
デュアルワッチを行うには	46
サーチ/スキャン中にデュアルワッチを行うには	46

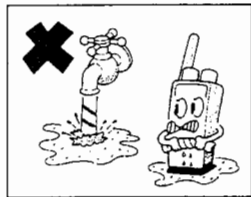
ご参考に	47
故障とお考えになる前に	48
セットモード一覧	49
周波数・周波数ステップ・電波型式関係表	50
アフターサービスについて	50
オプション(別売り品)の紹介	51
定 格	52
さくいん	53

はじめに

正しくお使いいただくために	4
本機について	5
アンテナを取り付けるには	6
電池を入れるには	6

正しくお使いいただくために

故障の原因になりますので、以下のことは行わないでください。



本機は、防滴構造(JIS防滴Ⅱ型)になっています。しかし、水や湿気の多い所では、ご使用にならないでください。また、水がかかった場合は、乾いた布などで、すぐに水分を拭き取ってください。



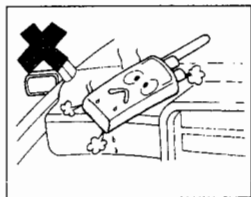
保冷庫の中など、低温の場所では使用しないでください。



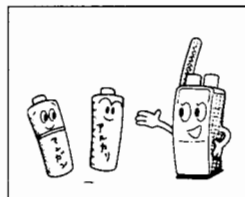
分解や改造は行わないでください。
コアやトリマーは、最良の状態に調整されています。手を触れないでください。



振動やホコリの多い所では使用しないでください。



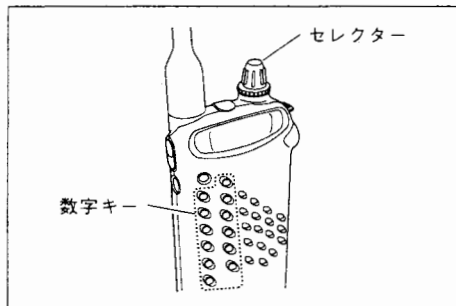
車のダッシュボードの上など、高温になる場所には放置しないでください。



使える電池は単3形のマンガン電池、アルカリ電池、またはオプションのニッカド充電電池(CNB401)です。これ以外の電池は使わないでください。
本機の動作電圧は2.2~3.5Vです。

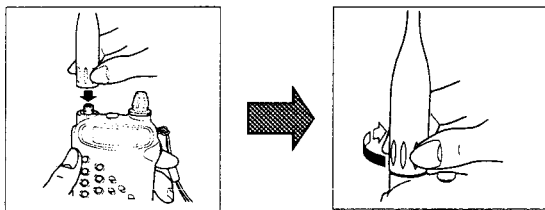
本機について

- 本機(AX400)は、500kHzから1300MHzのAM、FMナロー(アマチュア無線など)、FMワイド(一般のラジオ放送など)が受信できます。
- 本機は、プリセットモードと拡張モードの2つのモードを持っています。
- お買い上げになった直後は、本機はプリセットモードになっています。このモードでは、FM放送局やアマチュア無線などの主要な周波数があらかじめ数字キーにメモリーされています。(P.10)
メモリーから呼び出した周波数は、セクターを使って変更できます。また、変更した周波数を好きな数字キーにメモリーすることもできます。(P.11)
- 本機のモードをプリセットモードから拡張モードにすると、数字キーを使って周波数を直接入力できます。そして、受信したい周波数をより早く探すためのサーチやスキャンが使えます。また、このモードのときは、メモリーには400波の周波数が書き込めます。また、メモリーを整理するためのメモリースワップ機能があります。
- 本書では、拡張モードにしたときに使える機能を21ページから46ページの間で説明しています。



アンテナを取り付けるには

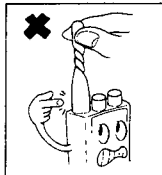
アンテナの根元を持って、本機のアンテナ端子に差し込み、時計方向(右回り)に回して締め付けます。



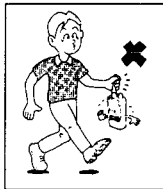
⚠ 注意

◆本機のアンテナ部分が誤って、目にささらないようにしてください。

◆故障の原因となりますので、つぎのことは行わないでください。

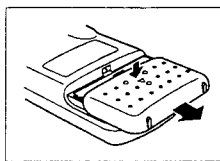


◆アンテナの上部を持って、取り付けを行わないでください。また、アンテナを回し過ぎないでください。

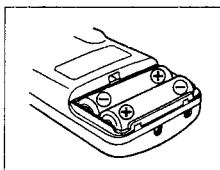


◆アンテナを握って、本機を持ち歩かないでください。

電池を入れるには



1 電池ブタをスライドさせて開ける



2 電池の極性を確かめ、電池を2本入れる

3 電池ブタをスライドさせて閉める

⚠ 警告

◆危険ですので、使用済みの電池は、火の中などに入れないでください。

⚠ 注意

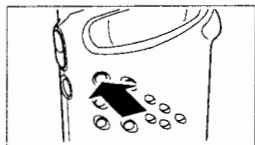
- ◆電池を交換するときは、電源を切ってください。
- ◆電池を入れるときは極性を合わせてください。
- ◆古い電池と新しい電池は混ぜて使用すると電池の寿命を短くすることがあります。

◆オプションのニッケド充電電池(CNB401)を使用する場合は、充電してからご使用ください。

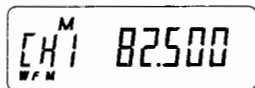
使いかたの基本を知ろう

電源を入れるには	8
プリセットモードについて	8
音量を調整するには	9
スケルチを調整するには	9
プリセットメモリーを呼び出すには	10
周波数を変更するには	10
電波の型式を選択するには	11
プリセットメモリーを変更するには	11
表示部のランプを点灯させるには	12
間違って操作するのを防ぐには (キーロック)	12
設定を最初の状態に戻すには (VFOリセット)	13
すべての状態を最初に戻すには (オールリセット)	13
各部の名称と動作	14

電源を入れるには



- 1 本機前面の **POWER** キーを1秒以上押す
(報知音が鳴り、表示が出ます。)



- 2 電源を切るには、**POWER** キーを1秒以上押す

⚠ 注意

- ◆本機をご使用にならないときは、乳幼児の手の届かないところで保管してください。
- ◆旅行などで長時間、本機をご使用にならないときは、電池は本機から外してください。また、外した電池は乳幼児の手の届かないところで保管してください。

プリセットモードについて

- 本機は初期状態(工場出荷時)では、プリセットモードになっています。このモードでは、数字キーにメモリーさせた周波数を呼び出し、聞きたい局が受信できます。また、セクター等を使って、呼び出した周波数を変更できます。
本機を拡張モード(D22)にすると、より細かく受信の状態を設定できます。

プリセットモードでは、次のことができます。

セクターを使った、周波数の変更

MEM / **EVENT** キーを使った、周波数の変更

セットモードの変更

電波型式の変更

キーロック

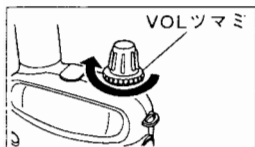
表示部の点灯

数字キーを使ったワンタッチメモリーの呼び出し、書き込み

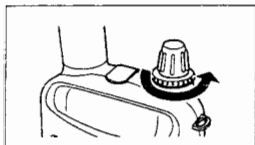


- ◆プリセットモードでは、設定できないセットモードがあります(D49)。拡張モードに変更すると、全てのセットモードが設定できます。
- ◆本機をプリセットモードから拡張モードに変更すると、サーチやスキャンが行えます。(D38)サーチやスキャンを行うと、より早く聞きたい局を探し出せます。また、聞きたい局や飛ばしたい局の周波数をメモリーに書き込むことができます(D32、40)。

音量を調整するには



- 1** 音量を大きくするには、VOLツマミを時計方向に回す



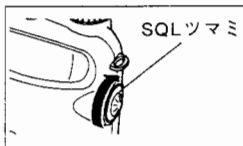
- 2** 音量を小さくするには、VOLツマミを反時計方向に回す

⚠ 注意

- ◆音量は、大きくならないようにしてください。特に本体スピーカーを使った後に、イヤホンなどを使うときは音量を下げてください。

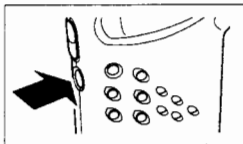
スケルチを調整するには

- 信号を受けていないときは、「ザー」という音がでます。この音を消すのがスケルチです。キーの操作によりスケルチを一時的にオフすることもできます。



- 1** SQLツマミを十側にゆっくり回す

- 2** 「ザー」という音が消える位置で、ツマミをとめる



- 3** スケルチをオフするためには、**[SQL OFF]** キーを押す（再び「ザー」という音が出ます。）



- ◆SQLツマミを回し過ぎると、弱い信号を受けることができないことがあります。

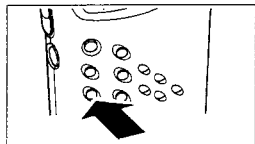
- ◆信号が弱く、受信音が途切れるときは**[SQL OFF]** キーを押し続けてください。連続して受信音が聞けます。ただし、受信音には「ザー」とい音が混ざって聞こえることがあります。

- ◆スケルチオフ：「ザー」という音が出ている状態をいいます。

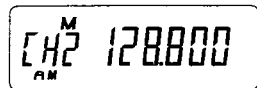
- ◆スケルチオン：スケルチの操作により、「ザー」という音が出ていない状態をいいます。

プリセットメモリーを呼び出すには

- プリセットモードのときは、数字キーはプリセットメモリーキーとして働きます。このキーにより簡単にメモリーに書き込まれている周波数を呼び出せます。



- 1 受信したい周波数を書き込まれている数字キーを押す



- 2 周波数が表示されることを確かめる



- ◆初期状態(工場出荷時)では、数字キーの1から9には次の周波数がメモリーに書き込まれています。

数字キー	周波数	電波型式
1	82.500 MHz	WFM
2	128.800 MHz	AM
3	145.000 MHz	FM
4	156.800 MHz	FM
5	221.750 MHz	WFM
6	904.0125 MHz	FM
7	3.925 MHz	AM
8	6.055 MHz	AM
9	9.595 MHz	AM

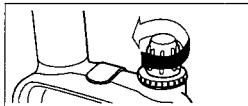
周波数を変更するには

- プリセットモードでは、周波数は次の2種類で変更できます。セレクターを使う、または[FUNC]キーを押しながら、[5A] / [EVENT] キーを使う。

セレクターを使う



- 1 時計方向に回すと、周波数ステップ(D18)ごとに周波数上がる



- 2 反時計方向に回すと、周波数ステップごとに周波数が下がる



- ◆本機は、クイックエンコーダー方式を採用しています。セレクターを速く回すと、周波数が大きく変化します。

[5A] / [EVENT] キーを使う



- 1 [FUNC] キーを押しながら、[5A] キーを押すと、周波数ステップごとに周波数上がる



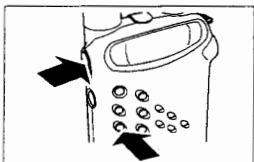
- 2 [FUNC] キーを押しながら、[EVENT] キーを押すと、周波数ステップごとに周波数が下がる



- ◆キーを押し続けると周波数をより速く変更できます。

電波の型式を選択するには

- 受信する電波の型式に合わせて、AM、FMナロー(FM)そしてFMワイド(WFM)が選択できます。



- 1 FUNC キーを押しながら、MODE キーを押す

- 2 このキーを押すたびに、表示は変わることを確かめる



- WFM : FM放送、TV放送の音声のみを受信するときに選びます。
- FM : アマチュア無線、マリンバンドなどを受信するときに選びます。
- AM : AM放送やエアバンドなどを受信するときに選びます。

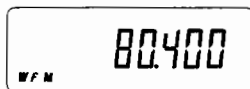


- ◆電波の型式が合っていないと、受信しても音が出なかったり、歪んで聞こえます。
- ◆本機は初期状態(工場出荷時)では、オートステップ機能(18)およびオートモード機能(18)が働いています。この機能は、周波数に合わせて、周波数ステップと電波の型式を自動的に変える機能です。この機能は、それぞれ解除できます。

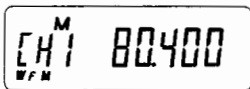
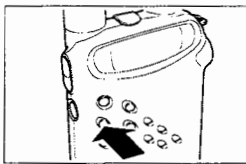
プリセットメモリーを変更するには

- プリセットメモリーの内容を変更します。

- 1 変更したい周波数、電波の型式にする



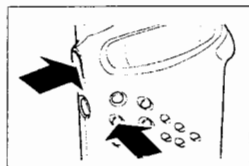
- 2 変更する数字キーを2秒以上押す (ピー音がし、メモリーアドレスが表示され、周波数がメモリーされます。)



- ◆本機のセレクターは、クイックエンコーダー方式を採用しています。セレクターを速く回すと、周波数が大きく変化します。

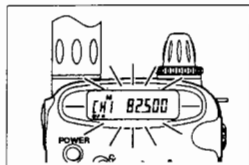
表示部のランプを点灯させるには

- 暗い場所などで使うときに、表示部のランプを点灯させることができます。この時、ランプはキー操作が終わった後、5秒後に消灯します。

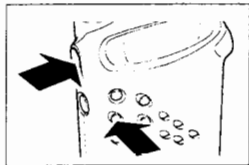


- 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[LAMP]** キーを押す

(ランプが点灯します。)



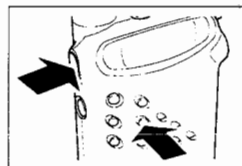
- 2 ランプを点灯中に消すには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[LAMP]** キーを押す



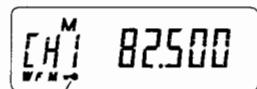
- ◆セットモードの設定により、ランプを点灯したままの状態にすることができます(D.19)。

間違っ操作するのを防ぐには (キーロック)

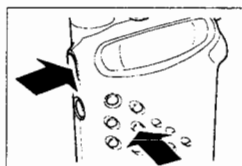
- キー操作をできないようにすることができます。これは、キーを間違っ押し、動作が変わってしまうのを防ぐためです。この操作をキーロックと呼びます。また、キーロック中はセクターも動きません。



- 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[KEY-L]** キーを押す
(キーマークが表示されます。)



キーマーク表示




- 2 この操作を解除するには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[KEY-L]** キーを押す

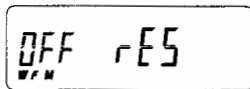



- ◆キーロックが働いているときでも、**[FUNC]**、**[POWER]**、**[SQL OFF]**、**[FUNC] + [LAMP]** キーは使えます。
- ◆拡張モードのときには、セットモードの設定により、キーロック中でもセクターを使えるようにすることができます(D.24)。

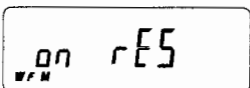
設定を最初の状態に戻すには (VFOリセット)


●メモリーの内容はそのまま、お買い上げになった状態に戻すことができます。これをVFOリセットと呼びます。間違った設定をしてしまい、もとの状態に戻せないときなどにご利用ください。

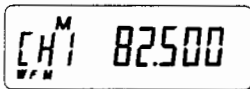
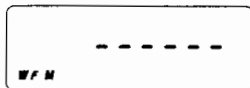
- F** +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す
2 セレクターを回し、表示をOFF rESにする



- F** +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示をonにする

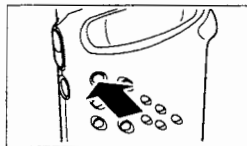


- F** +  **4** **[FUNC]** キーを押しながら、**[POWER]** キーを押す
 (「ピー」音がします。)
5 キーから手を離すと、表示部が初期状態に戻ることを確かめる

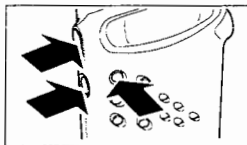


すべての状態を最初に戻すには (オールリセット)

●メモリーの内容もすべて消去し、お買い上げになった状態(初期状態)に戻すことができます。これをオールリセットと呼びます。

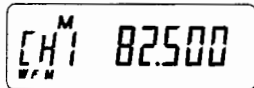


- 1** **[POWER]** キーを押し、電源を切る

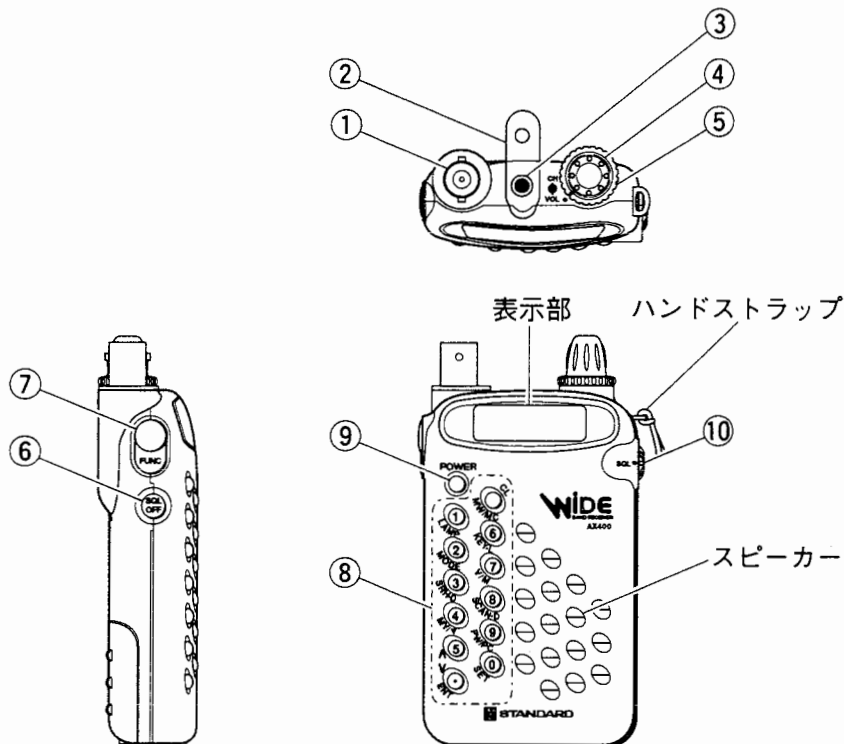


- 2** **[FUNC]** キーと**[SQL OFF]** キーを押しながら、**[POWER]** キーを押す
 (表示部が全表示します。)

- 3** キーから手を離すと、表示部が初期状態に戻ることを確かめる



各部の名称と動作



① アンテナ接続端子(BNCタイプ)

付属のアンテナをここに接続します。

② 防水キャップ

スピーカー端子を使わないときは、必ずこのキャップを開けてください。

③ 外部スピーカー端子

オプションのスピーカーを接続します。

④ セレクター

このつまみを回し、周波数を変更します。また、各種の設定を行うときに、設定内容を変更します。

⑤ VOLつまみ

このつまみを回し、音量を調整します。

⑥ SQL OFFキー

このキーを押している間、スケルチオフになります。

⑦ FUNCキー

このキーを押している間、各種の特別機能が設定できます。

⑧ 数字キー

◆ **[P]**はプリセットモード時、**[E]**は拡張モード時を表わします。

1 LAMPキー

[FUNC] キーを押しながら、このキーを押すと表示部のランプが5秒間点灯します。

[P] : メモリーアドレス1の呼び出し

[E] : 数字1の入力

2 MODEキー

[FUNC] キーを押しながら、このキーを押すと電波の型式をFM、FMワイド(WFM)、AMから選択できます。

[P] : メモリーアドレス2の呼び出し

[E] : 数字2の入力

3 SHR・Dキー

[P] : メモリーアドレス3の呼び出し

[E] : 数字3の入力

[E] : **[FUNC]** キーを押しながら、このキーを押すとサーチスタンバイになります。

4 MY/▼キー

[P] : メモリーアドレス4の呼び出し

[E] : 数字4の入力

[E] : **[FUNC]** キーを押しながら、このキーを押すとマイキーに登録したセットモード機能の切り替え

[E] : **[FUNC]** キーを押しながら、このキーを押すと、スキャン中にスキャンとメモリスキャンメモリーの切り替え

5 \wedge キー

[FUNC] キーを押しながら、このキーを押すと周波数が上がります。

[P] : メモリーアドレス5の呼び出し

[E] : 数字5の入力

6 KEY・Lキー

[FUNC] キーを押しながら、このキーを押すとキーロックの入/切りを行います。

[P] : メモリーアドレス6の呼び出し

[E] : 数字6の入力

7 V/Mキー

[P] : メモリーアドレス7の呼び出し

[E] : 数字7の入力

[E] : **[FUNC]** キーを押しながら、このキーを押すとVFO状態とメモリーモードの切り替え

8 SCAN・Dキー

- [P] : メモリアドレス8の呼び出し
- [E] : 数字8の入力
- [E] : [FUNC] キーを押しながら、このキーを押すとスキャンの開始

9 PW/PCキー

- [P] : メモリアドレス9の呼び出し
- [E] : 数字9の入力
- [E] : [FUNC] キーを押しながら、このキーを押すとサーチパスの書き込み状態への切り替え

0 SETキー

- [FUNC] キーを押しながら、このキーを押すとセットモードを呼び出します。
- [E] : 数字0の入力

・V ENTキー

- [FUNC] キーを押しながら、このキーを押すと周波数が下がります。
- [E] : 少数点(.)の入力
- [E] : このキーを押すと小数点以下の周波数決定

CL MW/MCキー

- [E] : このキーを押すと入力途中の状態をキャンセル
- [E] : [FUNC] キーを押しながら、このキーを押すとメモリー書き込み状態への切り替え

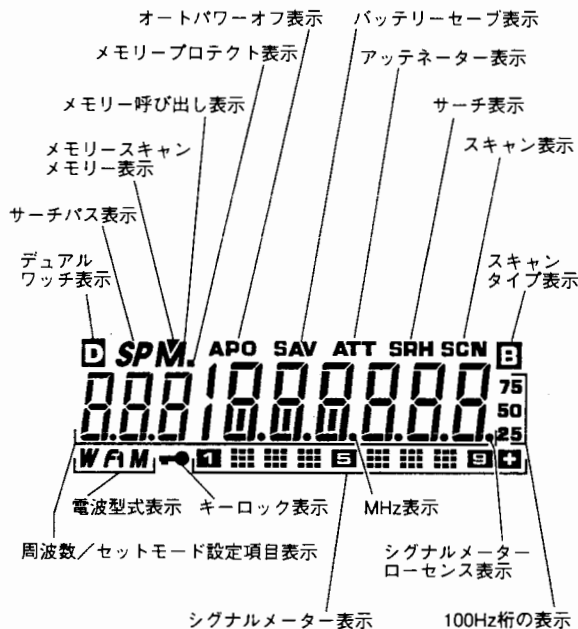
⑨POWERキー

このキーを押し、電源の入/切りを行います。

⑩SQLツマミ

このツマミを回し、スケルチを調整します。

表示部




もっと自由にあつかうために


周波数ステップを変えるには（オートステップ）	18
周波数に合わせて電波型式を変更するには（オートモード）	18
照明の操作を切り替えるには	19
キー操作音を鳴らさないようにするには	19
電池を長くもたせるには（バッテリーセーブ）	20
自動的に電源を切るには（オートパワーオフ）	20

もっと自由にあつかうために


周波数ステップを変えるには (オートステップ)

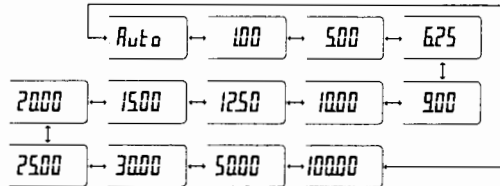
●セクター等で周波数を変更するとき、周波数は周波数ステップに従って変わっていきます。本機の初期状態(工場出荷時)では、周波数によって自動的に周波数ステップが変わります。これをオートステップと呼びます。オートステップから特定の周波数ステップ(1k~100kHz)に変更することができます。

F +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す

 **2** セクターを回し、表示をStP Autoにする

StP Auto

F +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示をAutoから変更する




4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す



◆オートステップ時の周波数と周波数ステップの関係は、周波数・周波数ステップ・電波型式関係表(D.50)をご覧ください。

周波数に合わせて電波型式を 変更するには(オートモード)

●初期状態では、周波数に合わせて電波型式は自動的に変更されます。これをオートモードと呼びます。また、この機能を解除できます。

F +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す



2 セクターを回し、表示をon Atmodeにする

on Atmode



3 **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示をonからOFFにする

OFF Atmode



4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す



◆オートモード時の周波数と電波型式の関係は、周波数・周波数ステップ・電波型式関係表(D.50)をご覧ください。

照明の操作を切り替えるには

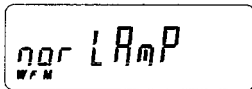


●ランプは5秒間点灯します。しかし、ランプの操作をしたときに、ランプを点灯したままの状態にすることができます。

F + 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す



2 セレクターを回し、表示をnor LAMPにする



F + 3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示をnorからtGLにする



4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す

F + 5 **[FUNC]** キーを押しながら**[LAMP]** キーを押し、ランプを点灯させる



◆ランプを消すには、**[FUNC]** キーを押しながら**[LAMP]** キーを押してください。

キー操作音を

鳴らさないようにするには

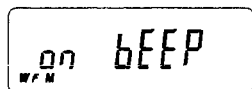


●キーを押したときや、電源を入れたときに出る音をビーブ音と呼びます。この音を出なくすることができます。

F + 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す



2 セレクターを回し、表示をon bEEPにする



F + 3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示をonからOFFにする





4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す

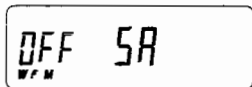
もっと自由にあつかうために


電池を長くもたせるには (バッテリーセーブ)

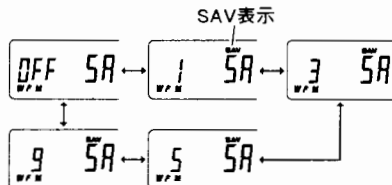
●電池を長くもたせるために、本機が消費する電流を少なくすることができます。これをバッテリーセーブと呼びます。また、この電流を少なくしている時間を変更できます。

F+  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[OSET]** キーを押す


F+  2 セクターを回し、表示をOFF SAにする



F+  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示をOFFから変更する




(このときの数字は、電流を少なくしている時間を秒で表わしています。)


 4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す

◆この機能が設定されているときは、SAVが常に表示されます。


自動的に電源を切るには (オートパワーオフ)

●約30分間、受信またはキー操作がないとき、自動的に電源を切ることができます。これをオートパワーオフと呼びます。電源が切れる1分前に警告音が鳴ります。

F+  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[OSET]** キーを押す

F+  2 セクターを回し、表示をOFF APOにする



F+  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示をOFFからonにする

APO表示



4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す



◆この機能が設定されているときは、APOが常に表示されます。


拡張モードを使うには


拡張モードにするには	22
VFO状態にするには	22
周波数を変更するには [2]	23
セットモードの機能を簡単に切り替えるには (マイキー)	24
キーロック中にセレクターを使えるようにするには	24
入力信号の強さに応じてスケルチを開くには (RFスケルチ)	25
受信感度を低くするには (アッテネーター)	25
FM時のシグナルメーターの振れる割合を変えるには	26
MHz単位で周波数を変えるには (ファーストステップ)	26
周波数を100MHzステップで変更するには	27

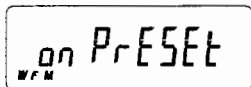
拡張モードにするには




- 本機をプリセットモードから拡張モードに変更できません。拡張モードでは、スキャンやサーチが行えます。また、数字キーを使って、周波数を変更できます。そして、すべてのセットモードの機能が使えるようになります。

F+  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[OSET]** キーを押す

 **2** セレクターを回し、表示をon PrESEtにする



F+  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回す
(拡張モードになりました。)



- ◆プリセットモードに戻るには、手順2で表示をOFF PrESEtにした後で、手順3を行ってください。

VFO状態にするには

- VFO (Variable Frequency Oscillator) 状態とは、セレクターや数字キー等を使って周波数を変えることができる状態をいいます。

1 表示部を確認する



2 Mが表示されているときは、**[CLMW/MC]** キーを押す

(メモリーモードです。P30)

セットモードのときは、**[CLMW/MC]** キーを押す
(P49)

周波数が変化しているときは、**[CLMW/MC]** キーを押す

(サーチ中です。P38)

Mが表示されているときに、周波数が変化しているときは、**[CLMW/MC]** キーを2回押す

(スキャン中です。P38)

3 VFO状態に戻ったことを確かめる

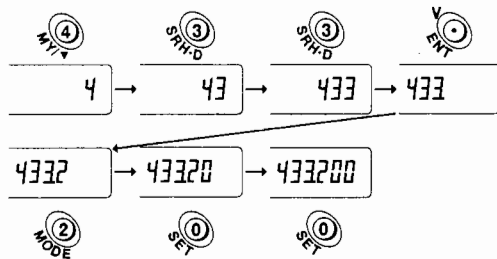
周波数を変更するには[2]

●拡張モードでは、周波数の変更方法は次の3種類があります。セクターを使う、**[EJNC]** キーを押しながら **[5A]** / **[V-ENT]** キーを使う、数字キーを使う。セクターと **[5A]** / **[V-ENT]** キーを使う方法はプリセットモードのときと同じです。

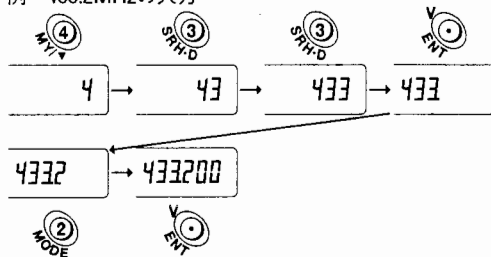
周波数を変更する前に、本機をVFO状態にしてください(P.22)。

数字キーを使って周波数を変更する

- 1 1kHzの桁まで入力し、周波数を決める
例 433.2MHzの入力

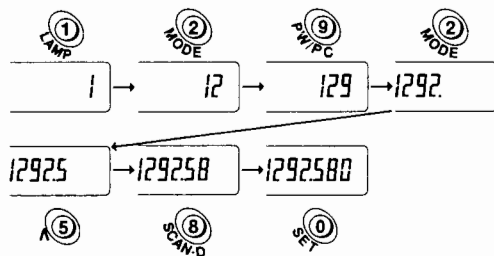


- 2 100kHz以下の桁を入力中に、周波数を決める
例 433.2MHzの入力



◆1MHzの桁と1kHzの桁の間で**[V-ENT]** キーを押すと、周波数が決まります。

- 3 1000MHz以上の周波数を入力する
例 1292.58MHzの入力




◆1MHzの桁と100kHzの桁の間で**[V-ENT]** キーは押しません

拡張モードを使うには／(拡張モード)

セットモードの機能を簡単に切り替えるには(マイキー)

- **[4MY/V]** キーによく使うセットモードを登録できます。これをマイキーと呼びます。初期状態では、周波数ステップが登録されています。

セットモードの機能を切り替えるには

F +  **[FUNC]** キーを押しながら、**[4MY/V]** キーを押す

セットモードを登録するには

- 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す
- 2 セレクターを回し、登録したいセットモードを表示する



OFF APD

- 3 **[FUNC]** キーを押しながら、**[4MY/V]** キーを押す
- 4 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す




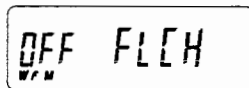
◆登録できないセットモードがあります。登録できないセットモードについては、セットモード一覧(D.49)をご参照ください。

◆VFOリセットまたはオールリセットを行うと周波数ステップが登録された状態に戻ります。

キーロック中にセレクターを使えるようにするには

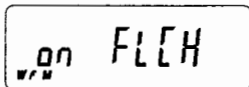
- 初期状態では、キーロック中はセレクターの操作ができません。しかし、この機能を使うと操作できるようになります。

- 1 **F** +  **[FUNC]** キーを押しながら、**[QSET]** キーを押す
- 2 セレクターを回し、表示をOFF FLCHにする



OFF FLCH

- 3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示をOFFからonにする




on FLCH

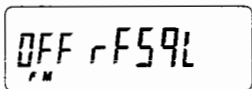



- 4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す

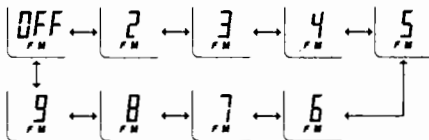
入力信号の強さに応じてスケルチ を開くには(RFスケルチ)


- 入力信号(RF)の強さ、つまりシグナルメーターの振れる割合に合わせて、スケルチを開かせることができます。これをRFスケルチと呼びます。このレベルは切り替えることができます。

- F** +  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す
2 セレクターを回し、表示をOFF rFSqLにする



- F** +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示をOFFから変更する



-  4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す




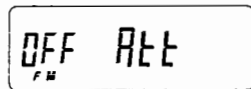
- ◆シグナルメーターの振れる割合と設定した数字の関係は以下ようになります。


OFF	設定なし	6	
2		7	
3		8	
4		9	
5			

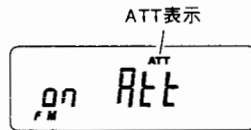
(拡張モード)/拡張モードを使うには 受信感度を低くするには (アッテネーター)


- 受信感度を低くすることができます。強い信号を受信し、音が歪んで聞こえることがあります。この機能を使うと音を歪みにくくすることができます。これをアッテネーターと呼びます。

- F** +  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す
2 セレクターを回し、表示をOFF Attにする



- F** +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示をOFFからonにする



-  4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す




- ◆この機能がonのときは、ATTが常に表示されます。

- ◆この機能をonにすると、受信感度が約20dB下がります。(100MHz時)

拡張モードを使うには／(拡張モード)

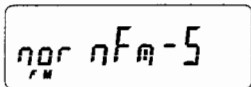
FM時のシグナルメーターの 振れる割合を変えるには


- この機能を使うと、電波型式がFMのとき、シグナルメーターの振れる割合いを少なくすることができます。

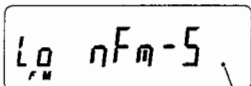
F+  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[OSET]** キーを押す



2 セレクターを回し、表示をnor nFm-Sにする



F+  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示をnorからLoにする



ドット表示




4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す



- ◆この機能がLoのときは、・(ドット)が常に表示されます。
- ◆この機能は、電波の型式がWFMまたはAMのときは働きません。
- ◆フォックスハンティング等で電波の発信源に近づいた時に、この機能をLoに設定すると、発信源の発見に効果的です。また、アッテネーター機能(D25)と組み合わせるとより効果的です。

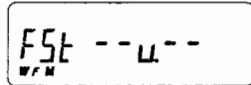
MHz単位で周波数を変えるには (ファーストステップ)


- [FUNC]** キーを押しながら、セレクターで周波数を変更すると、周波数はMHz単位で変わります。この変更される桁を100MHzから0.1MHzの間で変更することができます。これをファーストステップと呼びます。

F+  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[OSET]** キーを押す



2 セレクターを回し、表示をFSt--u.--にする




F+  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、変更したい周波数の桁にuを合わせる



4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す

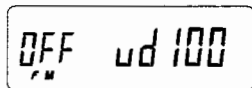
周波数を100MHzステップで 変更するには

- **FUNC** キーを押しながら、**5A** / **VENT** キーを押したときに、周波数を100MHzステップで変えることができます。

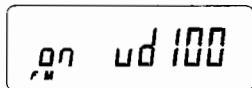
- F** +  1 **FUNC** キーを押しながら、**QSET** キーを押す



- 2 セレクターを回し、表示をOFF ud100にする



- F** + 3 **FUNC** キーを押しながら、セレクターを回し、表示をOFFからonにする



- 4 もとの表示に戻るには、**CLMW/MC** キーを押す

拡張モードを使うには／(拡張モード)

メモリー機能を使うには

メモリー機能について	30
メモリーを呼び出すには [1]	31
メモリーを呼び出すには [2]	31
メモリーするには	32
メモリーを消すには	33
メモリーを変更できないようにするには (メモリープロテクト)	33
メモリーをブロックごとに消すには	34
メモリーの内容を交換するには (メモリースワップ)	34
メモリー周波数のままVFO状態に戻るには	35

メモリー機能について

- ノーマル受信モードでは、よく聞く周波数をメモリーに書き込むことができます。メモリーに書き込むことができる周波数は399波です。
- メモリーに書き込みを行っているときや、メモリーを呼び出しているときを、「メモリーモード」と呼びます。このとき、表示部には「M」が表示されます。
- メモリーを書き込んだ番号を「メモリーアドレス」と呼びます。メモリーアドレスは001～399まであります。
- メモリーに書き込んだ内容を間違っ、て、変えたり、消したりしないためのメモリープロテクト(P.33)があります。

- メモリーの仲間には次のようなものがあります。

サーチバンドメモリー (P.32、40)

このメモリーは2波1組で、その2波の間の周波数を探すとき(サーチP.38)に使います。10組(20波)まで書き込めます。本機は、初期状態に10組(20波)が書き込まれています。これらの周波数は自由に書き替えることができます。

サーチパスメモリー (P.41)

このメモリーに書き込まれた周波数は、サーチをしているときに、受信しません。受信したくない周波数があるときに書き込みます。80波まで書き込めます。


プライオリティメモリー (P.32)

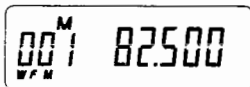
特によく聞く周波数を1波だけこのメモリーに書き込めます。メモリーモードのときに、この周波数とメモリーモードの周波数を交互に受信すること(デュアルワッチP.46)ができます。

メモリーを呼び出すには[1]

- 書き込まれているメモリーを呼び出します。セレクトターまたは[5△] / [○VENT]キーを使いメモリーアドレスを順番に変更することができます。


セレクトターを使う


- F** +  1 [FUNC] キーを押しながら、[7VM] キーを押し、メモリーモードにする



- 2 時計方向に回し、メモリーアドレスを上げ、反時計方向に回し、メモリーアドレスを下げる

[5△] / [○VENT] キーを使う

- F** +  1 [FUNC] キーを押しながら、[7VM] キーを押し、メモリーモードにする


- F** +  2 [FUNC] キーを押しながら、[5△] キーを押し、メモリーアドレスを上げ、[FUNC] キーを押しながら、[○VENT] キーを押し、メモリーアドレスを下げる

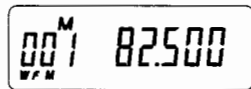


- ◆書き込まれていないメモリーアドレスは、セレクトターまたは[5△] / [○VENT] キーを操作しても表示されません。

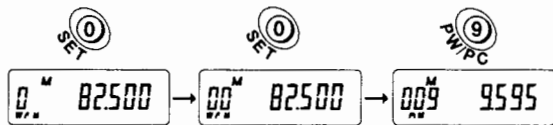
メモリーを呼び出すには[2]

- メモリーアドレスを数字キーを使い、直接呼び出すことができます。

- F** +  1 [FUNC] キーを押しながら、[7VM] キーを押し、メモリーモードにする



- 2 数字キーを使い、呼び出すメモリーアドレスを入力する
(3桁目が入力されると、メモリーアドレスが呼び出されます。)

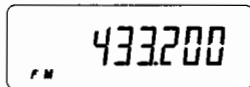



メモリーするには

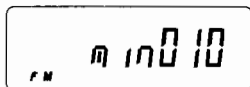
●よく使う周波数を、メモリーに書き込むことができます。


1 VFO状態にする

2 メモリーに書き込みたい周波数にする



 3 **[FUNC]** キーを押しながら、**[CLMW/MC]** キーを押す
(メモリーの書き込み状態になります。)






 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[CLMW/MC]** キーを押す
(「ピー」音がし、メモリーに書き込まれ、VFO状態に戻ります。)

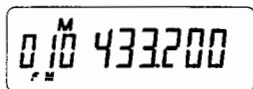



- ◆手順4で表示されるメモリーアドレスは、書き込まれていない一番小さい番号が表示されます。
- ◆手順4では、既に周波数が書き込まれているメモリーアドレスは表示されません。
- ◆手順4で、セクターまたは**[FUNC]** キーを押しながら、**[5A]** / **[VENT]** キーを使って、書き込まれていないメモリーアドレスまたはサーチバンドメモリーに変えることができます。
- ◆手順4で、数字キーを使って直接メモリーアドレスを入力し、メモリーすることができます。この時、既に書き込まれているメモリーアドレスは、新しい周波数に置き換わります。
- ◆手順4で、サーチバンドメモリーに直接周波数を書き込む場合のメモリーアドレスは、次のように入力してください。0-Aの場合は400、0-Bは401、1-Aは402、・・・、9-Aは418、9-Bは419。(P.40)
- ◆プライオリティメモリーに入力するときは、セクター等で表示をPriにするか、数字キーで000を入力してください。
- ◆手順4で、メモリーアドレスに空がないとき、表示はmin---です。

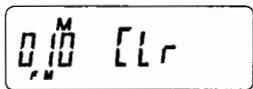
メモリーを消すには


- 書き込まれている周波数をメモリーアドレスごとに消すことができます。

- F** +  1 VFO状態にする
- F** +  2 **[FUNC]** キーを押しながら、**[7VM]** キーを押す
- F** +  3 消したいメモリーアドレスを表示する



- F** +  4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[CLMW/MC]** キーを押す (表示部にCLRが表示されます。)



- F** +  5 **[FUNC]** キーを押しながら、**[CLMW/MC]** キーを押す (「ピー」音がし、メモリーモードに戻ります。)





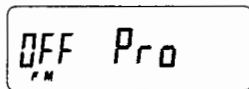
◆消したメモリーを復活させることはできません。メモリーを消さないときは、手順6を行う前に、**[CLMW/MC]** キーを押すか、**[FUNC]** キーを押しながら、**[7VM]** キーを押してください。


◆最後のメモリーアドレスを消したときは、手順6の後にはVFOモードになります。

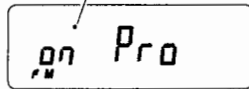
メモリーを変更できないようにするには(メモリープロテクト)

- メモリーを間違って変更したり、消すのを防ぐことができます。

- F** +  1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す
-  2 セレクターを回し、表示をOFF Proにする



- F** +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示をOFFからonにする
メモリープロテクト表示



- 4 もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す





◆この機能が働いていても、オールリセットを行うと、メモリーは消去されます。

◆この機能は、サーチパスメモリーには使えません。

メモリーをブロックごとに消すには

- メモリーをブロックごとに消すことができます。ブロックとはメモリーアドレスの100の桁を1つのブロックとします。ブロック番号とメモリーアドレスの関係は以下のようになっています。

ブロック番号	メモリーアドレス
0	001~099
1	100~199
2	200~299
3	300~399

-  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す
-  **2** セレクターを回し、表示をOFF bCLEARにする

OFF bCLEAR
FM



- 3** 消したいブロック番号を数字キーで入力する（「ピー」音がし、ブロック内のメモリーが消去され、VFO状態に戻ります。）



- ◆メモリーを消さないときは、手順3の前で、**[CLMW/MC]** キーを押してセットモードを解除してください。

メモリーの内容を交換するには (メモリースワップ)

- 2つのメモリーアドレスの間で、メモリーの内容を交換することができます。

-  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す
-  **2** セレクターを回し、表示をSwAPにする

SwAP
FM

- 3** 1つ目のメモリーアドレスを数字キーで入力する（1つ目のメモリーアドレスはSwAPの左側に表示されます。）

001 SwAP
FM

メモリーアドレス

- 4** 2つ目のメモリーアドレスを数字キーで入力する（2つ目のメモリーアドレスはSwAPの右側に表示されます。）
- 5** 2つ目のメモリーアドレスの3桁目を入力する（「ピー」音がし、VFO状態に戻ります。）




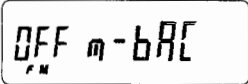





- ◆この機能は、サーチバンドメモリーとサーチバスメモリーには使えません。


メモリー周波数のまま VFO状態に戻るには

- メモリーモードを終わらせると、メモリーモード前のVFO状態に戻ります。しかし、この機能を使うとメモリーモードのときの周波数のままで、VFO状態に戻ることができます。

準備

-   **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[SET]** キーを押す
-  **2** セレクターを回し、表示をOFF m-bACにする

-   **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示をOFFからonにする
-  **4** もとの表示に戻るには、**[CLMW/MC]** キーを押す

メモリー周波数のままVFO状態に戻るには

- 1** VFO状態にしたい、メモリーアドレスにする
-  **2** **[CLMW/MC]** キーを押す(「ピー」音がして、VFO状態に戻ります。)



◆この機能はサーチパスメモリーには使えません。

メモリー機能を使うには／〈拡張モード〉



すばやく受信するために

受信するための各機能について	38
オールサーチするには	39
ワンタッチサーチするには	39
サーチバンドメモリーを書き替えるには	40
サーチバンドメモリーを消すには	40
プログラムサーチするには	41
サーチ中に受信したくない周波数を飛ばすには[1]（サーチパスメモリー）	41
サーチ中に受信したくない周波数を飛ばすには[2]（サーチパスメモリー）	42
サーチパスメモリーを消すには	43
オールメモリースキャンするには	43
指定した周波数をスキャンするには（メモリースキャンメモリー）	44
メモリーをブロックごとにスキャンするには（ブロックメモリースキャン）	45
ポーズタイプの停止時間を変えるには	45
デュアルワッチを行うには	46
サーチ／スキャン中にデュアルワッチを行うには	46

受信するための各機能について

● 拡張モードでは、受信したい周波数を探すためにサーチ機能とスキャン機能があります。また、特定の周波数とメモリーされた周波数を交互に受信するデュアルワッチ機能があります。

● サーチ機能とは、周波数を変化させて受信するものです。この機能は、3種類があります。周波数の変化は周波数ステップに従います。

オールサーチ (P.39)

本機の受信できる全域をサーチします。

ワンタッチサーチ (P.39)

サーチバンドメモリーを使って、サーチバンドメモリーに書き込まれた2波の周波数間をサーチします。

プログラムサーチ (P.40)

2つのメモリーを任意に指定して、その間をサーチします。

● スキャン機能とは、メモリーに書き込まれた周波数を順次受信するものです。この機能は、3種類があります。

オールメモリースキャン (P.43)

メモリーされているすべての周波数をスキャンします。

メモリースキャンメモリー (P.44)

指定したメモリーをスキャンします。

ブロックメモリースキャン (P.45)

メモリーをブロック単位でスキャンします。ブロックとは、メモリーアドレスの100の桁を1つのブロックとします。

● 信号を受けたときスキャン／サーチは止まります。スキャン／サーチの止まりかたには、3種類があります。この止まりかたは、スキャンとサーチで別々に設定できます。

ポーズタイプ

信号を受けるとスキャン／サーチは止まります。しかし、約5秒後には、信号を受けていても、スキャン／サーチは、再開します。セットモードで5秒以外に変更できます (P.45)。

ビジータイプ

信号を受けている間はスキャン／サーチは止まります。信号が無くなると約2秒後にスキャン／サーチを再開します。

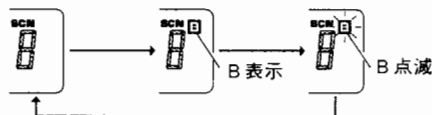
ホールドタイプ

信号を受けるとスキャン／サーチを一時保留します。信号が無くなってから、スキャン／サーチを再開するときは、セレクターを回すか、[5A] / [EVENT] キーを押します。

タイプを変更するには

F+ **0** サーチ／スキャン中に [FUNC] キーを押しながら、[0SET] キーを押す

ポーズタイプ ビジータイプ ホールドタイプ

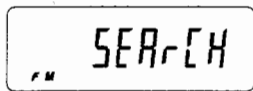


サーチ／スキャンを行う前にはザーという音が出ない位置まで、SQLツマミを回します。

オールサーチするには

- 本機の受信できる全域をサーチします。

- 1 VFO状態にする
- 2 **[FUNC]** キーを押しながら、**[SRH/D]** キーを押す
(表示部にSEARCHが表示されます。)



- 3 **[VENT]** キーを押す
(サーチが始まります。)



サーチします。



- 4 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す

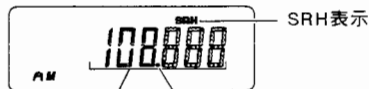


- ◆サーチを行っているとき、セレクターを1クリック回す、または**[FUNC]** キーを押しながら**[S/A]** / **[VENT]** キーを押すと、サーチを保留します。この時、SRHの表示は点滅します。
- ◆サーチを保留しているときに、周波数を上げる操作を行うとサーチする周波数も上がり、下げる操作を行うと、サーチする周波数も下がります。
- ◆サーチを行っているとき、**[FUNC]** キーを押しながらセレクターを回すと、サーチを停止せずに、MHz台を変更できます。

ワンタッチサーチするには

- サーチバンドメモリーに書き込んだ2波1組の周波数を使い、その間をサーチします。

- 1 VFO状態にする
- 2 **[FUNC]** キーを押しながら、**[SRH/D]** キーを押す
(表示部にSEARCHが表示されます。)
- 3 サーチを行いたい、サーチバンドメモリーの番号を数字キーで入力する
(サーチが始まります。)



サーチします。

- 4 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



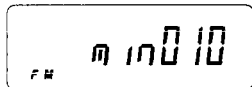
- ◆サーチを行っているときの保留の方法と向きの変えかたはオールサーチと同じです。
- ◆ワンタッチサーチを行っているときに、他の数字キーを押すと、サーチ範囲をワンタッチで変更することができます。
- ◆初期状態では、サーチバンドメモリー(D30)の0~9には、次の周波数書き込まれています。

数字キー	周波数範囲(MHz)	数字キー	周波数範囲(MHz)
0	76.0000~107.7500	5	175.7500~221.7500
1	108.0000~142.0000	6	430.0000~440.0000
2	144.0000~146.0000	7	450.0125~451.5000
3	146.0100~154.6500	8	850.0125~859.9875
4	156.0000~162.0500	9	903.0375~904.9875

サーチバンドメモリーを書き替えるには

●サーチバンドメモリーに書き込まれた周波数を変更できます。

- 1 VFO状態にする
- 2 サーチバンドメモリーに書き込みたい周波数にする
- 3 **[FUNC]** キーを押しながら、**[CLMW/MC]** キーを押す (メモリー書き込み状態になります。)



- 4 数字キーを使って、書き込みたいサーチバンドメモリーのメモリーアドレスを入力する (「ピー」音がし、サーチバンドメモリーに書き込まれ、VFO状態に戻ります。)



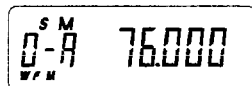
◆サーチバンドメモリーのメモリーアドレスと入力する数字の関係は次のようになります。

メモリーアドレス	入力数字	メモリーアドレス	入力数字
0-A	400	0-b	401
1-A	402	1-b	403
2-A	404	2-b	405
3-A	406	3-b	407
4-A	408	4-b	409
5-A	410	5-b	411
6-A	412	6-b	413
7-A	414	7-b	415
8-A	416	8-b	417
9-A	418	9-b	419

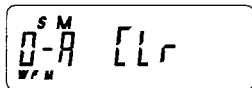
サーチバンドメモリーを消すには

●サーチバンドメモリーに書き込まれた周波数を消すことができます。

- 1 メモリーモードにする
- 2 セレクターを回し、消したいサーチバンドメモリーのメモリーアドレスを表示する



- 3 **[FUNC]** キーを押しながら、**[CLMW/MC]** キーを押す (CLrが表示されます。)



- 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[CLMW/MC]** キーを押す (「ピー」音がし、サーチバンドメモリーが消されます。)

- 5 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



- ◆サーチバンドメモリーを消さないときは、手順4の前で**[CLMW/MC]** キーを押してください。
- ◆サーチバンドメモリーの組になる一方のメモリーが消されているときは、サーチは行えません。

プログラムサーチするには

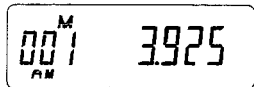
- メモリーに書き込まれている周波数を使い、その間にサーチします。

1 VFO状態にする

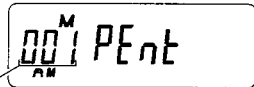


2 [FUNC] キーを押しながら、[7V/M] キーを押す

3 サーチを始めるメモリーアドレスを表示する



4 [FUNC] キーを押しながら、[3SRHD] キーを押す



メモリーアドレス

5 サーチを終らせるメモリーアドレスを数字キーを使って入力する
(メモリーアドレスの3桁目が入力されるとサーチは始まります。)



6 終了するには、[CLMW/MC] キーを押す

(拡張モード) / すばやく受信するために

サーチ中に受信したくない周波数を飛ばすには [1] (サーチパスメモリー)

- サーチを行っているときに、必要が無いのに止まる周波数があります。このような周波数をサーチパスメモリーに書き込めば、その周波数をサーチしなくなります。サーチサーチパスメモリーには、80波の周波数が書き込めます。このメモリーのアドレスはP00~P79です。以下の手順でサーチ中にサーチパスメモリーに書き込めます。

サーチを行っているとき書き込むには

- 1 飛ばしたい周波数でサーチが止まったことを確かめる



点滅



- 2 [FUNC] キーを押しながら、[9P/W/P/C] キーを押す
(「ピー」音がして、サーチパスメモリーに書き込まれます。)



◆このメモリーに空がないときは、サーチ中に書き込むことはできません。不要なメモリーアドレスを消してください。または、VFO状態にして、書き替えてください(D22)。

サーチ中に受信したくない周波数を飛ばすには[2](サーチパスメモリー)

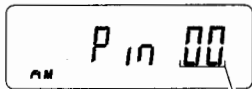
- VFO状態のときに、サーチパスメモリーに書き込むことができます。

VFO状態のとき書き込むには

- 1 VFO状態にする
- 2 飛ばしたい周波数にする



- 3 **[FUNC]** キーを押しながら、**[9PW/PC]** キーを押す



メモリーアドレス



- 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[9PW/PC]** キーを押す
(「ピー」音がして、サーチパスメモリーに書き込まれます。)



- 5 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



- ◆手順3の後で、数字キーやセレクター等を使って表示されている以外のメモリーアドレスにすることができます。
- ◆手順3で、サーチパスメモリーに空がないと、表示はPin ---になります。このときは、消してもよいメモリーアドレスの番号を数字キーを使って入力してください。新しい周波数が入力されます。
- ◆メモリーモードのとき、**[FUNC]** キーを押しながら、**[7VM]** キーを押すと、サーチパスメモリーが表示されます。数字キーやセレクター等を使ってメモリーアドレスを変更してください。

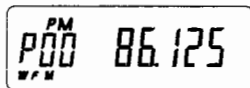
サーチパスメモリーを消すには

- 1 メモリーモードにする

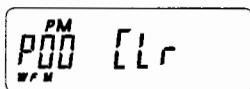


- 2 **[FUNC]** キーを押しながら、**[V/M]** キーを押す

- 3 セレクター、数字キーなどで、消したいメモリーアドレスを表示する



- 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[P.W/PC]** キーを押す
(CLrが表示されます。)



- 5 **[FUNC]** キーを押しながら、**[P.W/PC]** キーを押す
(「ピー」音がして、サーチパスメモリーが消されます。)



- 6 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



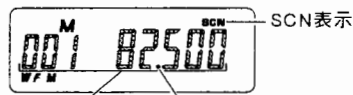
- ◆サーチパスメモリーを消さないときは、手順5の前で、**[CLMW/MC]** キーを押してください。

オールメモリースキャンするには

- メモリーされているすべての周波数をスキャンします。



- 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[B.SCAN-D]** キーを押す
(スキャンが始まります。)



スキャンします。 点滅

- 2 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



- ◆スキャンを行っているとき、セレクターを1クリック回す、または**[A]** / **[VENT]** キーを押すと、スキャンを保留します。この時、SCNの表示が点滅します。

- ◆スキャンを保留しているときに、周波数を上げる操作を行うとスキャンするメモリーアドレスも上がり、下げる操作を行うと、スキャンするメモリーアドレスも下がります。

- ◆オールメモリースキャンは、サーチ、メモリーモード、セットモード、サーチパスメモリー表示時そしてVFO状態の時から始められます。

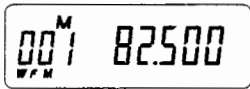
指定した周波数をスキャンするには(メモリスキャンメモリー)



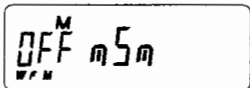
- スキャンしたいメモリーを指定してスキャンします。

スキャン前の準備(メモリーの指定)にする

- 1 メモリーモードにする
- 2 指定をしたいメモリーアドレスにする



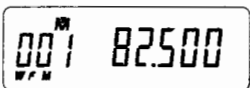
- 3 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す
- 4 セレクターを回し、表示をOFF mSmにする



- 5 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示をOFFからonにする (Mの上に▼が表示されます。)



- 6 **[CLMW/MC]** キーを押す (指定したメモリーアドレスのMの上に▼が表示されます。)



- 7 他のメモリーを指定するときは、手順2から始める

- 8 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



スキャンするには

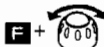
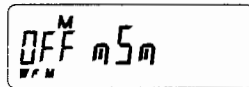
- 1 VFO状態にする



- 2 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す



- 3 セレクターを回し、表示をOFF mSmにする



- 4 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、表示をOFFからonにする (▼が表示されます。)



- 5 **[FUNC]** キーを押しながら、**[8SCAN-D]** キーを押す (スキャンが始まります。)



スキャンします。点滅



- 6 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



◆メモリスキャンメモリーを解除するには、手順4で表示をonからOFFにしてください。

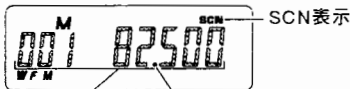
◆メモリスキャン中に、**[FUNC]** キーを押しながら、**[4MYV]** キーを押すとメモリスキャンメモリーが始まります。

メモリーをブロックごとにスキャンするには(ブロックメモリスキャン)

- メモリスキャンをブロック内で行います。ブロックとは、メモリーアドレスの100の桁を1つのブロックとします。(P.34)

F + **SCAN/D** 1 **FUNC** キーを押しながら、**SCAN/D** キーを押す
(オールメモリスキャンが始まります。)


SET **SW/PC** 2 スキャンを行うブロック番号を数字キーで入力する



スキャンします。 点滅

3 他のブロックをスキャンするときは、スキャンを行うブロック番号を数字キーで入力する

CLM/MC 4 終了するには、**CLM/MC** キーを押す

 ◆メモリスキャンメモリーを行っているときに、ブロック番号を入力すると、入力されたブロック内でメモリスキャンメモリーを行います。

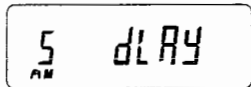
◆入力したブロック番号に、メモリーが1つもないときは「ブー」音がし、その番号を受け付けません。そして、オールメモリスキャンに戻ります。

ポーズタイプの 停止時間を変えるには

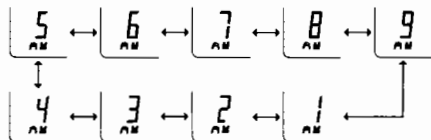
- 信号を受けたときポーズタイプでは、スキャン/サーチは、約5秒間保留されます。この時間を変更することができます。

F + **SET** 1 **FUNC** キーを押しながら、**0SET** キーを押す

SEL 2 セレクターを回し、表示を5 dLAYにする



F + **SEL** 3 **FUNC** キーを押しながら、セレクターを回し表示を5から変更する



(数字は、サーチ/スキャンを停止している時間を秒で表わしています。)

CLM/MC 4 もとの表示に戻るには、**CLM/MC** キーを押す

デュアルワッチを行うには



- メモリアドレスPri(000)の周波数と別の周波数を交互に受信できます。これをデュアルワッチと呼びます。

- 1 デュアルワッチを行いたい、状態と周波数にする

VFO状態 (P.22)

メモリーモード (P.31)

サーチバスメモリー (P.40)



- 2 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET]** キーを押す
- 3 セレクターを回し、表示をOFF duALにする

OFF duAL



- 4 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回す (5秒に一度メモリアドレスPriを受信します。)

433200 P_{ri}^M 439520



- 5 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す



- ◆メモリアドレスPriに周波数が書き込まれていないときは、手順4で「ブー」音がし、OFFから表示を変えることができません。メモリアドレスPriに周波数を書き込んでください。(P.32)

サーチ／スキャン中にデュアルワッチを行うには

- サーチ／スキャンを行っている間に、デュアルワッチを行うことができます。



- 1 サーチ (P.39) またはスキャン (P.42) を行う

サーチ中は、**[FUNC]** キーを押しながら、

[3SEH-D] キーを押す



スキャン中は、**[FUNC]** キーを押しながら、

[8SCAN-D] キーを押す

(5秒に一度メモリアドレスPriを受信します。)

433800

P_{ri}^M 439520



- 2 終了するには、**[CLMW/MC]** キーを押す

ご参考に

故障とお考えになる前に	48
セットモード一覧	49
周波数・周波数ステップ・電波型式関係表	50
アフターサービスについて	50
オプション(別売り品)の紹介	51
定 格	52
さくいん	53

故障とお考えになる前に

- 故障かな?とお考えになる前に該当する項目があったら確認してみてください。

電源が入らない

- 電池が消耗している

周波数が変わらない

- キーロックになっている (●が表示されている)

受信しない/強い信号しか受信しない

- アンテナが外れている、緩んでいる
- 受信しようとしている局から離れすぎている
- スケルチツマミが+方向に回し切っている
- RFスケルチの設定が大きな値になっている

受信音がしない

- 音量ツマミが反時計方向に回し切っている
- RFスケルチが設定されている
- 電波の型式が合っていない

受信音がひずむ

- 電波の型式が合っていない

ザーという音が出る

- スケルチツマミが一方向に回し切っている(スケルチオフになっている)

メモリーに書き込めない

- メモリーアドレスに空がない

サーチ/スキャンしない

- スケルチオフになっている

メモリースキャンしない

- メモリーが全て空メモリーになっている。または、ひとつしかメモリーされていない
- メモリースキャンメモリーのとき、メモリースキャンメモリーの登録しているメモリーがない。または、ひとつしか登録されていない

セットモード一覧

SET MODE		呼び出し	セットモードの選択	機能の選択	
		+	/ +	+	
★:マイキー登録可能		E:拡張モード時に追加される機能(拡張モードでは、すべてのセットモードが使えます。)			
初期表示		機 能	OFF bCLear	★ E	メモリーをブロックごとに消す機能 (P34)
StP Auto	★	周波数ステップの選択 (P18)	OFF Pro	★ E	メモリープロテクトのON/OFF選択 (P33)
on Atmode	★	受信電波により電波型式を自動変更 (P18)	OFF rFS9L	★ E	RFスケルチの選択 (P25)
nor Lamp	★	ランプ点灯の操作切り替え (P19)	OFF Att	★ E	受信感度を低くする機能の ON/OFF選択 (P25)
on bEEP	★	キー操作音(ビーブ音)のON/OFF (P19)	nor nFm-5	★ E	シグナルメーターの振れる割合の選択 (P26)
OFF SA	★	バッテリーセーブの時間選択 (P20)	OFF mSm	★ E	メモリスキャンメモリーの設定 (P44)
OFF APD	★	オートパワーオフの時間選択 (P20)	OFF duAL	★ E	デュアルワッチのON/OFF選択 (P46)
OFF rES	★	メモリー以外の内容を最初に戻す機能の許可 (P13)	FSt --u--	★ E	ファーストステップの桁数選択 (P26)
on PrESEt		プリセットモード/拡張モードの切り替え (P22)	OFF ud 100	★ E	キー/キーのステップ選択 (P27)
OFF FLCH	★ E	キーロック時のセレクター使用 可能ON/OFF選択 (P24)	SwAP	E	メモリーの入れ替え (P34)
S dLRY	★ E	サーチ/スキャンのポーズタイプ時の 停止時間選択 (P45)	OFF m-bAL	★ E	メモリー周波数でVFO状態に戻る 機能のON/OFF選択 (P35)



◆この表は、コピー等をして、切り取ってお使いください。

周波数・周波数ステップ・ 電波型式関係表

- オートステップとオートモードのときの周波数・周波数ステップ・電波型式は以下のようになります。また、周波数は以上～未満で表わしています。

周波数範囲	周波数ステップ	電波型式
0.50～0.52 MHz	1 kHz	AM
0.52～1.62 MHz	9 kHz	AM
1.62～29.00 MHz	5 kHz	AM
29.00～35.53 MHz	10 kHz	FM
35.53～51.00 MHz	5 kHz	AM
51.00～54.00 MHz	20 kHz	FM
54.00～76.00 MHz	5 kHz	FM
76.00～108.00 MHz	50 kHz	WFM
108.00～136.05 MHz	25 kHz	AM
136.05～138.00 MHz	10 kHz	FM
138.00～142.00 MHz	25 kHz	AM
142.00～144.00 MHz	10 kHz	AM
144.00～146.00 MHz	20 kHz	FM
146.00～170.00 MHz	10 kHz	FM
170.00～225.00 MHz	50 kHz	WFM
225.00～250.40 MHz	100 kHz	AM
250.40～430.00 MHz	12.5 kHz	FM
430.00～440.00 MHz	20 kHz	FM
440.00～459.50 MHz	12.5 kHz	FM
459.50～464.80 MHz	25 kHz	WFM
464.80～470.00 MHz	12.5 kHz	FM
470.00～810.00 MHz	25 kHz	WFM
810.00～940.00 MHz	12.5 kHz	FM
940.00～1260.00 MHz	100 kHz	WFM
1260.00～1300.00 MHz	20 kHz	FM

アフターサービスについて

保証について

- この製品の保証期間は1年間です。
- この製品には、保証書がついています。
- 保証書は、記入事項をよくご確認のうえ大切に保管してください。
- 保証期間内でも有料修理となることがあります。保証書をよくご確認ください。

保守サービスについて

- 保証期間経過後においても、修理が可能なものは、お客様のご要望により有料修理いたします。なお、修理内容によっては、修理費が高額になる場合もありますのでご承知願います。

故障の場合は

- 「故障とお考えになる前に」をよくお読みのうえ、もう一度故障の状況をお調べください。それでも、うまく動かないときは、お買い上げになった販売店または当社営業所、当社サービスセンターにご相談ください。

オプション(別売り品)の紹介

CLC400	ソフトケース
CSK12	スピーカー
CSA401	充電器
CNB401	ニッケド充電電池

定 格

一般仕様

周波数範囲	0.500MHz~1299.999MHz (一部の周波数帯を除く)	
スピーカーインピーダンス	8Ω	
アンテナインピーダンス	50Ω	
アンテナコネクタ	BNC	
周波数ステップ	1kHz、5kHz、6.25kHz、9kHz、 10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、 25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、AUTO	
メモリー数	メモリー	400チャンネル
	サーチバンドメモリー	10チャンネル
	サーチパスメモリー	80チャンネル
動作電圧範囲	DC 2.2V ~ 3.5V	
定格電圧	DC 3.0V	
使用電池	単3形マンガン電池、単3形アルカリ電池、 オプション・ニッカド充電電池(CNB401)	
消費電流		
受信時	約125mA (AF OUT 60mW 8Ω)	
待ち受け時	約65mA	
バッテリーセーブ時	約16mA (設定: 1秒)	
本体寸法	58(幅)×97(高さ)×24(奥行き)mm (突起物除く)	
本体質量	約200g (電池、アンテナ含む)	
動作温度範囲	-10℃~+60℃	

受信部

電波型式	A3E(AM)、F3E(WFM、FM)	
受信感度	0.5MHz以上 5MHz未満	
	AM	1.5μV (10dB S/N)
	5MHz以上 160MHz未満	
	AM	1.0μV (10dB S/N)
	FM	0.5μV (12dB SINAD)
	WFM	0.7μV (12dB SINAD)
	160MHz以上 370MHz未満	
	AM	1.0μV (10dB S/N)
	FM	0.7μV (12dB SINAD)
	WFM	1.0μV (12dB SINAD)
	370MHz以上 520MHz未満	
	FM	0.5μV (12dB SINAD)
	WFM	1.0μV (12dB SINAD)
	520MHz以上 1300MHz未満	
	FM	1.0μV (12dB SINAD)
	WFM	1.0μV (12dB SINAD)
オーディオ出力	約90mW (8Ω、10%歪時)	

●本機の外観および定格は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

さくいん

A		さ		ま	
AM	11	サーチ	38	マイキー	24
B	33	サーチバンドメモリー	30、40	メモリー	30
F	キ	サーチバスメモリー	30、41	メモリーアドレス	30
FM	11	シグナルメーター	16、26	メモリースキャンメモリー	44
P	キ	周波数ステップ	18	メモリスワップ	34
RFスケルチ	25	スキャン	38	メモリーモード	30
VFO状態	22	スケルチ	9	ら	
VFOリセット	13	セットモード	49	ランプ	12
WFM	11	セクター	10	リセット	13
あ		た		わ	
アッテネーター	25	電池	6	ワンタッチサーチ	38
アンテナ	6	電波型式	11		
オートステップ	18	デュアルワッチ	46		
オートパワーオフ	20	は			
オートモード	18	バッテリーセーブ	20		
オールサーチ	39	ビープ音	19		
オールメモリースキャン	43	ビジー	38		
オールリセット	13	表示部	16		
音量	9	ファーストステップ	26		
か		プライオリティメモリー	30、32		
拡張モード	5、22	プリセット	5、8		
キーロック	12	プリセットメモリー	10		
		プログラムサーチ	41		
		ブロック	34		
		ブロックメモリースキャン	45		
		ポーズ	38		
		ホールド	38		

日本マランツ株式会社

本 社 〒228 神奈川県相模原市相模大野7丁目35番1号
営業本部 〒150 東京都渋谷区恵比寿南1丁目11番9号

お問い合わせは

最寄りの日本マランツ株式会社、各営業所、サービスセンター
で承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。